

主催 神奈川大学人文学研究所

『流動と混在の上海文学』出版記念シンポジウム



流動する都市、 混在する言葉

上海を「書く」ということ

エクリチュール

時間・場所

2025年

10月25日(土)

14時～17時(13:30開場)

神奈川大学みなとみらいキャンパス
5F小・中ホール



本シンポジウムは、2025年3月に刊行された賈海濤著『流動と混在の上海文学』（ひつじ書房）を起点とし、著者による執筆・出版の振り返りに加え、中国現代文学華語圏文学の第二線で活躍する研究者の鋭い視点から、流動し混在する上海と、そこで生まれる文学の可能性を立体的に浮かび上がらせる。

グローバル化と国家の論理が交錯し、独自の文化と言葉が揺らぐメガシティ、上海。多様な言語・文化が交差するこの都市では、文学もまた豊かに紡がれてきた。旧租界へのノスタルジア、移住者がもたらす文化の混在、そして上海語による創作の挑戦——現代作家たちは、これらのテーマからいかに新たな都市の物語を立ち上げるのか、その可能性を探る。

主催 神奈川大学人文学研究所(共同研究グループ『日中関係史』)

後援 ひつじ書房/日本中国当代文学研究会

本シンポジウムは、科研費研究活動スタート支援「〈異語〉使用の小説におけるパラテキストの多面的研究」研究成果展開の一環

参加方法 参加無料・事前申込制(右のQRコードより)

お問い合わせ ft160332mo●kanagawa-u.ac.jp (●を@に変えてください)



プログラム

●14:00～14:10

・司会: 孫安石

(神奈川大学教授)

開会の辞

●14:10～14:30

・賈海濤

(神奈川大学外国人特任助教)

「新たな『地域性』を求めて
——本書の構想から出版まで」

●14:30～16:10

【招待講演】

・鈴木将久

(東京大学教授)

「方言文学の可能性を
めぐって」

専門は1930年代モダニズム・1940年代
リアリズム文学を中心とした中国現代文学。
著書『上海モダニズム』など

・松村志乃

(近畿大学准教授)

「文学『上海』のポリフォニーと
王安憶の果たした役割」

専門は中国当代文学を中心とした
中国語圏文学。著書『王安憶論』

・橋本陽介

(お茶の水女子大学准教授)

「『繁花』の文体と上海表象」

専門は中国語文体論、修辭的文法論。
著書『物語における時間と話法の
比較詩学』など

●16:10～16:50

総合討論・質問応答

●16:50～17:00

閉会の辞

イラストレーション 金宇澄『無題』(2018年)